

第1回「地域のニーズに応じたバス・タクシーに係るバリアフリー車両の開発」 検討会議事概要

1. 日時

平成22年5月27日（木）10:00～12:00

2. 場所

中央合同庁舎3号館11階共用会議室

3. 出席者

鎌田実（委員長）、藤井直人、大野寛之、今福義明、沢田大輔、根本克己、川村泰利、富田征弘、秋澤忠、丹山裕和、佐藤昌一、岡野俊豪、松田修一、泰松潤、中川茂、山下和彦、和久田学、福元聡、稲葉一雄、小滝晃（代理石島）、山崎篤男（代理大森）、石崎仁志、清谷伸吾（代理鈴木）、村田茂樹

事務局：日本自動車研究所、国土交通省自動車交通局総務課企画室

敬称略順不同

4. 議事概要

自動車交通局 稲葉審議官、鎌田委員長の挨拶の後、事務局より、今年度調査の進め方について説明があり、了承されるとともに、詳細についてはバス・タクシーの作業部会を設置し検討することとなった。なお、委員より主に以下の発言があった。

- ・ ワンステップバスは、運転手が介助の際に腰を痛めることもあり、運転手にとっても負担となる。
- ・ 車いす固定について、安全性評価のほかに、運転手に操作してもらうなどして操作性の評価を行うべきである。
- ・ ノンステップバスの走破性について、ワンステップバス並のアプローチ・デパーチャアングルにすれば走破可能か検討すべきである。
- ・ フルフラットバスについて、バス事業者がどの程度の価格で購入する意向か調査するべきである。
- ・ 乗車定員11人以上の車両について、白ナンバーと緑ナンバー（自家用と営業用）での保安基準等の違いを調査し、緑ナンバーの基準緩和を検討してほしい。
- ・ 車両導入を推進するために、本検討会で検討している車両や、路線バスから乗合タクシーへの代替による赤字路線見直しの好事例等について、国土交通省から地方自治体等に情報発信・周知・推奨すると共に、普及支援策の検討を行うべきである。
- ・ EV（電気自動車）は室内のデザイン面でもフレキシビリティがあり、ユニバーサルデザインへの対応に有効と考えられるため、タクシーのEV化についても検討して欲しい。
- ・ ユニバーサルデザインタクシーの普及のためには、体の悪い人だけでなく一般の人にも良いと思われる車両を検討することが必要である。また、ユニバーサルデザインタクシーとして認知性を向上させる必要がある。
- ・ 道路環境等、車両では解決できない課題について、関係部局にも働きかけを行うべきである。

以上